様式第３号（第１２条関係）

# 会　　議　　録

| | |
|---|---|
| 会　議　の　名　称 | 令和７年度第４回吉川市水道運営委員会（書面会議） |
| 開　催　日　時 | 令和７年１１月４日（火） |
| 開　催　場　所 | ― |
| 出席委員（者）氏名 | （市議会）戸田馨委員<br>（使用者）阿部照義委員、辻健人委員、富岡透委員、<br>中島眞由美委員、番場勇貴委員、平塚史子委員、山﨑成一会長<br>（有識者）宇野二朗副会長、木暮昭彦委員 |
| 欠席委員（者）氏名 | なし |
| （　事　務　局　）<br>担当課職員職氏名 | 水道課長兼水道技術管理者　吉野達也<br>施設担当主査　本間廣勝、施設担当主査　松本謙一<br>庶務担当主査　山﨑真由美、庶務担当　遠山美南海、野澤文彌 |
| 会議次第と会議の公開又は非公開の別 | 【次第】<br>１　議　事<br>(1) 令和７年度吉川市水道事業会計補正予算（第２号）（案）について<br><br>【公開・非公開】公開 |
| 非公開の理由<br>（会議を非公開にした場合） | |
| 傍　聴　者　の　数 | ０名 |

| | |
|---|---|
| 会議資料の名称 | 令和７年度吉川市水道事業会計補正予算（第２号）（案）<br>資料令和７年度吉川市水道事業会計補正予算（第２号）概要<br>吉川市水道運営委員会名簿<br>令和７年度吉川市水道運営委員会会議開催予定表 |
| 会議録の作成方法 | □録音機器を使用した全文記録<br>□録音機器を使用した要点記録<br>■要点記録 |
| 会議録確認指定者 | 阿部照義委員、中島眞由美委員 |
| その他の必要事項 | |

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）

| | |
|---|---|
| | 1　議事<br>会議録について、書面会議開催通知により、阿部委員と中島委員を署名委員に指名する。<br><br>(1) 令和７年度吉川市水道事業会計補正予算（第２号）（案）について<br>令和７年度吉川市水道事業会計補正予算（第２号）（案）及び資料令和７年度吉川市水道事業会計補正予算（第２号）概要に基づき、書面審議<br><br>【意見・質疑等】 |
| 山崎会長 | 概要の２資本的収支予算（支出）工事費（石綿管布設替工事費）で、人件費等の高騰によりとあるが、当初予算より約7%の増額における人件費の占める割合と、当初と比較した人件費の上昇率はどのくらいか。 |
| 事務局 | 補正額は、例年の変更額を踏まえた想定額としているため、具体的な人件費の割合は示すことはできないが、労務単価については、当初予算の積算時と令和７年４月を比較すると約5%増額している。また、部材については、鋳鉄製製品の価格上昇はないが、樹脂製製品は、10%～15%上昇している。 |
| 富岡委員 | P12にある重要な非資金取引とは何を示しているのか。 |
| 事務局 | 資金の増加または減少を伴わない取引で、翌事業年度以降のキャッシュ・フローに重要な影響を与えるものを指す。受贈による資産取得が該当し、主なものは区画整理事業や特別給水管の布設管である。受贈分の工事費については、水道事業の施工でないため資金取引は発生しない。また、受贈後は水道事業の資産として管理し、減価償却費や長期前受金戻入（収益）が翌年度のキャッシ |

| | |
|---|---|
| | ュ・フローに計上される。 |
| 富岡委員 | 減損の兆候とは具体的にどのような状態であるときなのか。 |
| 事　務　局 | １例として、業務活動から生じる損益またはキャッシュ・フローが継続してマイナスまたは継続してマイナスとなる見込みである状態が挙げられる。<br><br>書面会議の結果、参加委員全員より異議なしの回答あり。<br><br>以上で終了。 |

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和７年１２月１８日

署名委員　　阿部　照義（自署）　　署名委員　　中島　眞由美（自署）